

アジアカリカ言語文化研究 JOURNAL OF ASIAN AND AFRICAN STUDIES

No. 102

September 2021

岩田 啓介
清代チベット・青海間交通路の変容

特集 現代ウラマーの交流と思想伝播
ウズベキスタン・シリア・リビアを事例に

近藤 信彰
序文

和崎 聖日
ムハンマド＝サーディク・ムハンマド＝ユースフの軌跡
ウズベキスタン・イスラームにおける非党派主義と中道主義の萌芽過程

高尾賢一郎
バアス党の「公式」イスラームから見る現代シリアの宗教権威像
アフマド・クフターローとラマダーン・ブーティーを中心に

小林 周
プラットフォームとしてのイスラーム研究・教育機関
リビアにおける世界イスラーム・ダアワ協会の役割

熊倉和歌子・吉村 武典・亀谷 学・手島 秀典・久保 亮輔
マムルーク朝前期・軍務庁書記官のための書記術指南
スワイリーの『学芸の究極の目的』『ディーワーンの書記術と財務のペン』
(第2学芸・第5部・第14章) 日本語訳注

林 良育
『齊民要術』に見える北土高原の水稲作について
移植法の解明を中心に

CONTENTS

- Article
- 5 **Changes in the Transportation Routes between Tibet and Qinghai in the Qing Period**
 IWATA, Keisuke
 清代チベット・青海間交通路の変容
 岩田 啓介
-

[Special Feature]
Interaction and Propagation of Islam among Ulama in Modern World
Cases of Uzbekistan, Syria and Libya
[特集]
現代ウラマーの交流と思想伝播
ウズベキスタン・シリア・リビアを事例に

- 29 **Introduction**
 KONDO, Nobuaki
 序文
 近藤 信彰

- Article
- 33 **The Path of Muhammad Sodiq Muhammad Yusuf**
 The Process of Establishing Non-partisanship and *wasatīya* on Islam in Uzbekistan
 WAZAKI, Seika
 ムハンマド＝サーディク・ムハンマド＝ユースフの軌跡
 ウズベキスタン・イスラームにおける非党派主義と中道主義の萌芽過程
 和崎 聖日

Article

- 63 **The Public Image of Religious Authority in Modern Syria through the “Official” Islam under the Ba‘th Regime**
The Cases of Aḥmad Kuftārū and Ramaḍān al-Būṭī
TAKAO, Kenichiro
バアス党の「公式」イスラームから見る現代シリアの宗教権威像
アフマド・クフターローとラマダーン・ブーティーを中心に
高尾賢一郎

Article

- 93 **Islamic Research and Educational Institution as a Platform**
The Role of the World Islamic Call Society in Libya
KOBAYASHI, Amane
プラットフォームとしてのイスラーム研究・教育機関
リビアにおける世界イスラーム・ダアワ協会の役割
小林 周

Source Material

- 115 **Instructions for Scribes in the Military Office during the Baḥrī Mamluk Period**
“Scribal Arts for the Dīwān and the Pen of Fiscal Administration”
(§2.5.14) of Shihāb al-Dīn Aḥmad al-Nuwayrī’s *Nihāyat al-Arab fī Funūn al-Adab*
KUMAKURA, Wakako, YOSHIMURA, Takenori, KAMEYA, Manabu, TESHIMA, Hidenori and KUBO, Ryosuke
マムルーク朝前期・軍務庁書記官のための書記術指南
ヌワイリーの『学芸の究極の目的』「ディーワーンの書記術と財務のペン」
(第2学芸・第5部・第14章) 日本語訳注
熊倉和歌子・吉村 武典・亀谷 学・手島 秀典・久保 亮輔

Source Material

- 157 **The Cultivation of Rice Using a Paddy in Northern Plateau Described in *Qinmin Yaoshu***
The Investigation of Transplant
HAYASHI, Kazuyasu
『齊民要術』に見える北土高原の水稲作について
移植法の解明を中心に
林 良育

執筆／CONTRIBUTORS

岩田啓介

筑波大学人文社会系

助教

IWATA, Keisuke

Assistant Professor

Faculty of Humanities and Social Sciences

University of Tsukuba

近藤信彰

東京外国語大学

アジア・アフリカ言語文化研究所

教授

KONDO, Nobuaki

Professor

Research Institute for Languages and Cultures
of Asia and Africa

Tokyo University of Foreign Studies

和崎聖日

中部大学人文学部

講師

WAZAKI, Seika

Lecturer

College of Humanities

Chubu University

高尾賢一郎

中東調査会

研究員

TAKAO, Kenichiro

Research Fellow

Middle East Institute of Japan

小林 周

東京外国語大学

アジア・アフリカ言語文化研究所

共同研究員

KOBAYASHI, Amane

Joint Researcher

Research Institute for Languages and Cultures
of Asia and Africa

Tokyo University of Foreign Studies

熊倉和歌子

東京外国語大学

アジア・アフリカ言語文化研究所

助教

KUMAKURA, Wakako

Assistant Professor

Research Institute for Languages and Cultures
of Asia and Africa

Tokyo University of Foreign Studies

吉村武典

大東文化大学国際関係学部

講師

YOSHIMURA, Takenori

Lecturer

Faculty of International Relations

Daito Bunka University

亀谷 学

弘前大学人文社会科学部

准教授

KAMEYA, Manabu

Associate Professor

Faculty of Humanities and Social Sciences
Hirosaki University

手島秀典

中央大学大学院文学研究科

博士後期課程

TESHIMA, Hidenori

Ph.D. Candidate

Graduate School of Letters

Chuo University

久保亮輔

一橋大学大学院経済学研究科

博士課程

日本学術振興会特別研究員

KUBO, Ryosuke

Ph.D. Candidate

Graduate School of Economics

Hitotsubashi University

Research Fellow of Japan Society for the

Promotion of Science

林 良育

河合塾

HAYASHI, Kazuyasu

Kawaijuku Educational Institution

執筆要領

1. 原稿は、日本語・英語・フランス語のいずれかを使用すること。
2. 原稿は、「論文」または「資料」とする。「論文」は、執筆者自身による未発表の研究論文、「資料」は、研究・分析のための資料を研究者一般が利用できる形にして掲載するもので、言語テキスト、語彙資料、歴史資料など。
3. 原稿は、以下の要領で作成すること。
 - a. MS-Wordで作成すること。
 - b. A4判で、天地左右とも余白22ミリ。日本語の場合は文字サイズ10.5ポイントにて、横書き43字×40行、英語またはフランス語の場合は、文字サイズ12ポイントを使用し、ダブル・スペースで入力すること。
 - c. 表・図などには表題と通し番号を付けること。
 - d. 特殊文字・記号を用いた場合には、その一覧表を添付すること。
4. 原稿は、1枚目を表紙とし、「論文」「資料」の別のほか、表題、執筆者名、所属・職名（日本語原稿の場合には、日本語・英語の両文）、メールアドレスを記す。2枚目以降には、執筆者名および所属など筆者を特定できる情報を記載しないこと。
5. 2枚目以降は、論文または資料の本文とし、「論文」「資料」の別、表題に続いて要旨、キーワード、目次、本文を記す。その際、特に次の点に注意すること。
 - a. 要旨は、英語にて作成すること（300語程度）。
 - b. 目次は、第2階層までの見出しを記すこと。
 - c. キーワードは、日本語と英語それぞれ5語を附すこと。原稿が英語またはフランス語の場合には、英語5語のキーワードを附すこと。
 - d. 注は脚注とし、1から始まる通し番号とすること。謝辞などはタイトル行に「*」として入れ、注番号に含めないこと。
 - e. 論文などに言及、あるいは論文などの一部を引用する場合には、次のような形で著者名、出版年、ページを記す。
山口 1978: 25.
Sapir 1925: 40–41.
6. 参考文献は稿末に一覧としてまとめる。同著者による同年の文献が複数あるものについては、2004a, 2004b などとして区別すること。なお、文献を言語別に分けてもよい。その場合、日本語文献については五十音順とする。文献の記載方法は原則として以下の例に従うこと。
 - a. 単行本 [例]
山口昌男 1978『知の遠近法』白水社。
Jespersen, Otto. 1924. *The Philosophy of Grammar*. London: Allen and Unwin.
 - b. 雑誌 [例]
前嶋信次 1966「テリアカ考—文化交流史上から見た一薬品の伝播について」『史学』38(4): 1–39.
Mithun, Marianne. 1984. “The Evolution of Noun Incorporation.” *Language*, 60(4): 847–894.
 - c. 論文集掲載論文 [例]
飯塚正人 2012「イスラームとは何か？従うべき『知』〈神の命令〉を求めて」床呂郁哉・西井涼子・福島康博編『東南アジアのイスラーム』, 25–28, 東京外国語大学出版会。
Berge, Anna. 2016. “Insubordination in Aleut.” *Insubordination* (Nicholas Evans and Honoré Watanabe, eds.), 283–308, Amsterdam and Philadelphia: John Benjamins.
*同一論文集の論文を多数引用している場合、その論文集自体を単行本の扱いで見出しとして出し、各論文には次のような要領で論文集を示す方式を取ってもよい。
Berge, Anna. 2016. “Insubordination in Aleut.” *Insubordination* (N. Evans et al. eds.), 283–308.
7. 言語学における例文の引用などについては、以下のように、語または形態素ごとに訳「グロス」をつけること。
 - (1) *nákorera ébaná*
I.am.working.for children
'I am working for the children.'
 - (2) *n-á-kor-er-a ébaná*
1SG.SUB-PRES.PROG-WORK-BEN-FIN children
'I am working for the children.'
 - (3) *n-á-kor-er-a ébaná*
1 単主語-現在進行-働く-受益-語尾 子供たち
「私は子供たちのために働いている。」
8. 原稿で複製する写真と図を含むすべての資（史）料の使用許可は、執筆者が自己責任において得るものとする。その際、使用許可に対する謝辞は執筆者の責任において明記すること。

投 稿 規 定

1. 原稿の内容は、アジア・アフリカの言語文化研究に学術的に寄与しうるものとします。
2. 投稿された原稿は、2名以上の匿名の査読者による査読を受けるものとします。
3. 投稿者の資格は、特に制限しません。
4. 原稿の分量は、「論文」の場合のみ、「執筆要領」に定める書式に基づき、A4(43字×40行)で30ページまでとします。分量の制限は論考の本文のみにかかるもので、表紙、要旨、キーワード、目次、参考文献、図表等を含みません。「資料」の場合、分量に制限はありません。なお、「論文」「資料」とも、図表等の点数が多い場合(10点以上)は、投稿の前にご相談ください。
5. 投稿原稿は、他誌に過去掲載されていないもの、投稿時点で他誌に投稿中でないものに限ります。
6. 校正は、初校を著者校正とし、資料などの性質上、必要と認められた場合には2校目以降も著者が行うものとします。校正時の訂正は、誤植および字句の修正以外は認めません。なお、誌内での統一のため、原稿内の表記の一部を編集部で変更する場合があることをご了承ください。
7. 抜刷は、あらかじめ注文があれば、実費(著者負担)で作成します。
8. 本誌に発表されたものを転載する場合は、あらかじめ本編集部にご一報の上、転載された出版物を1部ご寄贈ください。
9. 編集部は本誌に掲載された全ての原稿を電子媒体によって複製、公開し、公衆に送信することができるものとします。
10. 投稿希望者は、下記連絡先宛てにメールを送り、原稿の送付先についての指示を受けてください。
11. 連絡先：
東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
『アジア・アフリカ言語文化研究』編集部
〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1
E-mail: edit-js[at]aa.tufs.ac.jp ([at] を@に変更)

本誌掲載の著作物の著作権は著者に属します。これら著作物はクリエイティブ・コモンズ表示 4.0 国際 (CC BY 4.0) ライセンスの下に提供されています。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

● 編 集 後 記 ●

『アジア・アフリカ言語文化研究』102号編集部は国内外から合計10点(「論文」5点、「資料」3点、その他1点、不明1点)の投稿原稿を受理しました。

各投稿原稿は少なくとも2名の査読者(所外の査読者を含む)による慎重な審査を実施し、その結果、合計7点(「論文」4点、「資料」2点、その他1点)が採択され、当誌に掲載されました。

● お 知 ら せ ●

『アジア・アフリカ言語文化研究』は101号より電子化され、オンラインジャーナルとなりました。今後はオンライン版をご利用ください。刊行時のご案内をご希望の場合は、[edit-js\[at\]aa.tufs.ac.jp](mailto:edit-js[at]aa.tufs.ac.jp) ([at] を@に変更)へメールアドレスをお知らせください。
<http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/publications/jaas>

アジア・アフリカ言語文化研究 102号

2021年9月30日発行

編集・発行：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1
(電話 042-330-5600)

編集専門委員：安達真弓、飯塚正人、石川登、石川博樹、岩田礼、
河合香吏(委員長)、澤田英夫、永原陽子、西井凉子、三浦徹、
森口恒一、和崎春日 ^{50音順}

編集部：安達真弓、飯塚正人、石川博樹、河合香吏(編集長)、澤田英夫、
西井凉子 ^{50音順}

組 版：中西印刷株式会社
〒602-8048 京都市上京区下立売小川東入